

## 神経の回路

原 口 暢 朗\*

冒頭から私事で恐縮であるが、ここ数年、不如意な、雑用の多い生活を送った。生活時間の大半が、連絡調整、出張、事務処理等に費やされた。この間、雑用への対応時間は格段に短くなったが、研究者に必要な何かは奪われていくような気がしていた。しかし、それが何であるか、正確にはわからなかった。

本年3月末で、このような生活に一応の区切りがつき、書きかけの論文に着手したが、なかなか筆が進まない。このとき、不如意な生活の間に失われたものが何であるか思い当たった。それは、論文を書くための神経の回路であった。神経の回路という言葉は、思考パターンという言葉で置き換えても良いかも知れない。

職業人と非職業人、プロとアマとを区別する一つの点は、職業に特有な神経の回路の有無であると思われる。例えば、行政官は、おそらく頭の中にいくつもの法律の条文がインプットされており、行政的に解決すべき案件が発生すると、いくつかの解決策とそれに関する法律上の問題が咄嗟に浮かぶような神経の回路を持っているのであろう。また、将棋や囲碁の棋士は、ある画面を見せられたとき、勝利のルールに則ればこの画面がどのように変化していくか、瞬時にイメージできるのであろう。

研究に特有な神経の回路は、学部卒の段階では形成されていない。学部卒の人間には、受験勉強によって、与えられた問題を解くような神経の回路が形成されている。その内容は記憶と問題のパターン認識である。一方、研究者は、例えば、いくつかの客観的事実と基礎学の知見とを総合して「研究の問題」を作り出さなくてはならない。与えられた問題を解く神経の回路と、研究の問題を作り出す神経の回路とは、全く異質なものである。

このため、学部卒で研究職を拝命した者は、就職後いずれかの時期に、研究に特有な神経の回路を構築しなければならない。幸いにして、当方は、前々任地で参加した「土壌物理ゼミ」など各種のゼミにおいて、この機会に恵まれた。“原口さん、数式ではわからない。絵を描いて説明して下さい”と何回言われたか正確には憶えていないが、研究の問題が与えられたとき、真っ先に絵を描こうとする神経の回路はこの時期に形成された。改善の余地は大いにあるが、就職した当初に比べて、確かな進歩があったと思う。

研究にも様々な分野がある。研究者の持つ神経の回路には、共通する部分と研究分野に固有な部分とがあるように思う。現任地では、土壌肥料分野の研究者と議論する機会が多いが、議論がかみ合わない場合をしばしば経験する。こちらが、先方の研究のバックグラウンドを把握していないことが理由の一つであるが、ある程度共通の理解がある話題でも、議論がかみ合わない。例えば、窒素の動態という問題を議論した際、当方は雨が降って硝酸が土壌中を移動する比較的短時間の現象をイメージしたが、先方はもっと長い時間スケールでの現象をイメージしたようであり、この問題の認識に関する神経の回路の違いが感じられた。ただし、このような議論のすれ違いは、自分の直

\* (独) 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 〒861-1192 熊本県合志市須屋 2421

面している研究問題に対して、別の視点を提供する貴重な機会であると考えている。

4月に入って1ヶ月が経過し、一旦は切れかかった神経の回路が徐々につながってきたようである。これを失っては、単なる月給泥棒に過ぎない、と自戒している。